Canon

SPEEDLITE 270EX

J

使用説明書

キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

キヤノンスピードライト 270EXは、E-TTL II/E-TTL自動調光システムに対応したEOSカメラ用小型ストロボです。制御は、すべてカメラ側で行いますので、**「内蔵ストロボ撮影と同じような感覚」**で、気軽にストロボ撮影が楽しめます。

● EOSデジタルカメラとの組み合わせ

・EOSデジタルカメラとの組み合わせに最適化された設計になっています。

● EOSフィルムカメラとの組み合わせ

・E-TTL II/E-TTL自動調光方式のEOSフィルムカメラと組み合わせた場合は、EOSデジタルカメラ組み合わせ時と同様に自動調光撮影を行うことができます。
・TTL自動調光方式のEOSフィルムカメラとの組み合わせでは、使用できません。

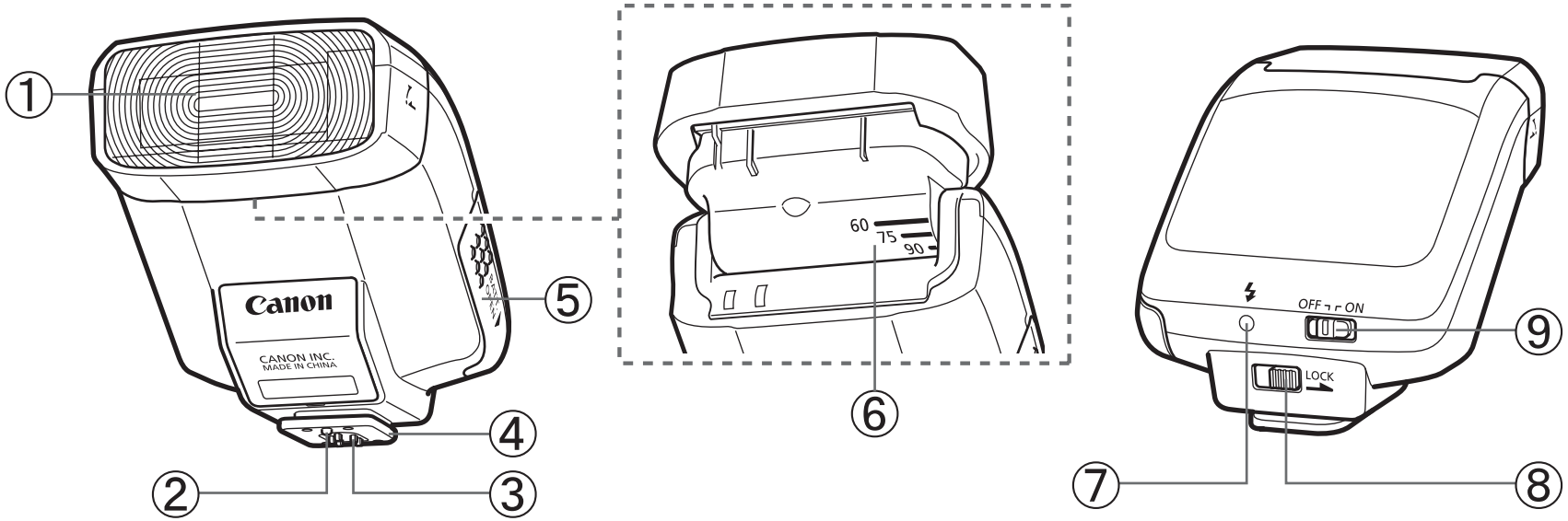
● カメラの使用説明書のストロボ撮影に関する説明もあわせてお読みください。

カメラの使用説明書では、便宜上、E-TTL II/E-TTL自動調光システムに対応しているカメラを「Aタイプカメラ」と表記しています。

目次

各部の名称.....4
電池を入れる.....5
カメラに取り付ける.....7
全自動ストロボ撮影.....8
カメラの撮影モード別ストロボ撮影.....9
照射角の切り換え.....11
バウンス撮影.....12
その他の機能.....13
カメラ操作によるストロボの機能設定.....14
故障かな？と思ったら.....16
主な仕様.....17

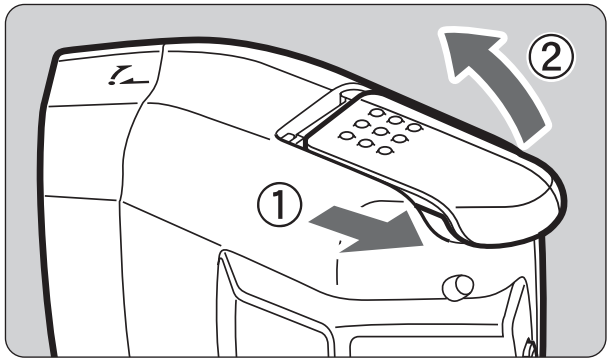
各部の名称



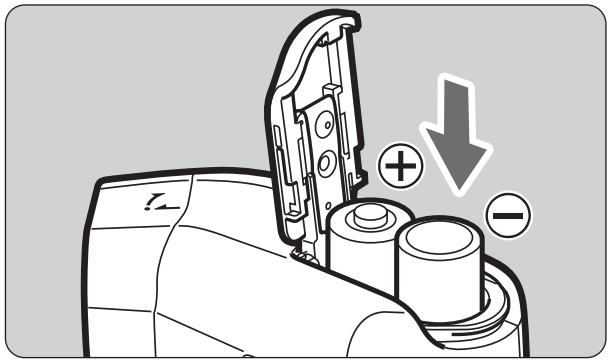
① 発光部／AF補助光投光部
② 取り付け脚ロックピン
③ 接点
④ 取り付け脚
⑤ 電池室ふた
⑥ バウンス角度指標

⑦〈ϟ〉ランプ
⑧ 取り付け脚ロックレバー
⑨ 電源スイッチ
〈ON〉：電源を入れる
〈OFF〉：電源を切る

電池を入れる



1 矢印の順にふたを開ける



2 電池を2本入れる

- 「+」「—」を正しい向きに入れてください。
- ふたを元の位置に戻します。

発光間隔と発光回数

発光間隔：約0.1～3.9秒
発光回数：約100～680回

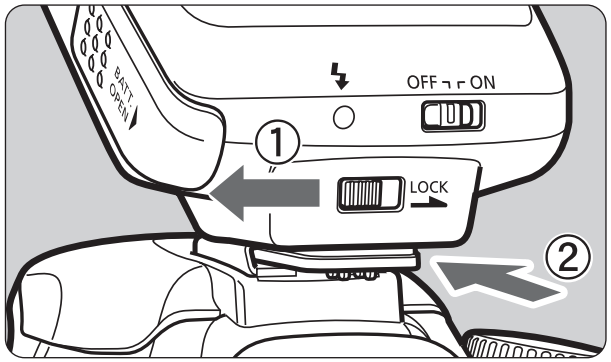
- 新品の単3形アルカリ乾電池使用、当社試験基準による数値です。

- 電池は2本とも新品で同一の銘柄を使用してください。電池の交換は2本同時に行ってください。
- **短時間の連続発光は、20回までにしてください。**
  短時間に20回以上繰り返し発光を行った場合には、発熱防止安全機能が働き、発光間隔が強制的に約8～20秒になることがあります。そのときは、約15分休止すると、元の状態に戻ります。
- 連続発光後に電池を交換する場合は、電池がかなり熱くなっていますので、ご注意ください。
- アルカリ乾電池以外の単 3 形電池は、接点形状が規格で統一されていないものがあるため、電池の種類によっては、接触不良を起こす場合があります。

単3形のニッケル水素電池、リチウム電池も使用できます。

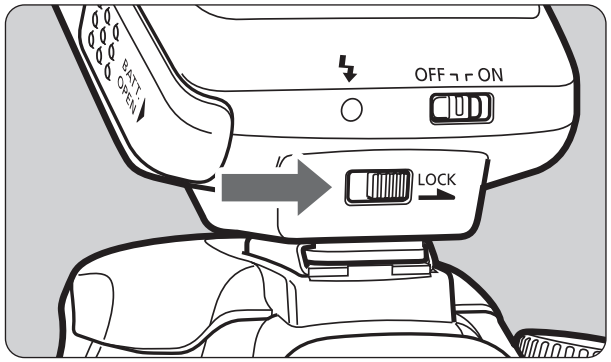
カメラに取り付ける

ストロボの取り付け／取り外しは、必ずストロボの電源を切ってから行います。



1 レバーを左にスライドし、カメラに取り付ける

- ストロボの取り付け脚がアクセサリーシューの奥に突き当たるまで、しっかり差し込みます。



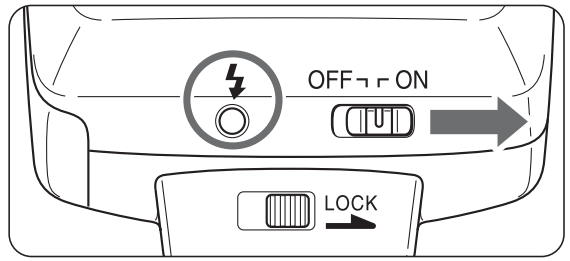
2 固定する

- レバーを右にスライドします。
- 取り外すときは、ロックレバーを左方向にスライドし、カメラから外します。

全自動ストロボ撮影

カメラの撮影モードを〈□〉（全自動）、〈CA〉（クリエイティブ全自動）、〈**P**〉（プログラムAE）にすると、「カメラまかせの全自動ストロボ撮影」ができます。

1 電源スイッチを〈ON〉にする



➡ 充電が始まります。

2 〈ϟ〉ランプの点灯を確認する

- 点灯すると、撮影できます。
- ストロボ撮影距離範囲の目安は、p.19でご確認ください。
- 点滅状態でも撮影（クイック発光）できますが、光量は通常発光の1/2～1/3になります。

3 撮影する

- 撮影結果が暗いときは、被写体に近づいて再度撮影するか、ISO感度を上げてください。
- マニュアル発光（p.14）に設定されていると、クイック発光できません。
- 連続撮影時はクイック発光できません。（発光できるようにするには→p.15）

カメラの撮影モード別ストロボ撮影

Tv：シャッター優先AE

　自動設定された絞り数値に対し、適切な露出になるようカメラがストロボの発光量を自動調整します。

・絞り数値が点滅するときは、背景が露出アンダー、またはオーバーになります。絞り数値が点灯するように設定を変更してください。

Av：絞り優先AE

　設定した絞り数値に対し、適切な露出になるようカメラがストロボの発光量を自動調整します。

夜景などを背景にした暗い場所では、主被写体も背景も標準露出となる、スローシンクロ撮影になります。主被写体はストロボ光で、背景はスローシャッターによる長秒時露光で標準露出となります。

・暗い場所では、シャッター速度が遅くなりますので、三脚を使用して撮影することをおすすめします。

・シャッター速度が点滅するときは、背景が露出アンダー、またはオーバーになります。シャッター速度が点灯するように設定を変更してください。

M：マニュアル露出

シャッター速度も絞り数値も任意に設定したいときに選択します。
主被写体は、設定した絞り数値に対し、カメラがストロボ発光量を自動調整するため、標準露出になります。背景の露出は、設定したシャッター速度と絞り数値によって決まります。

カメラの撮影モード別ストロボ同調シャッター速度と絞り数値

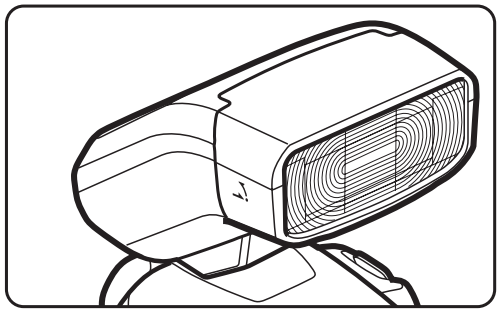
	シャッター速度の設定	絞り数値の設定
P	自動設定（1/X ～ 1/60秒）	自動
Tv	手動設定（1/X ～ 30秒）	自動
Av	自動設定（1/X ～ 30秒）	手動
M	手動設定（1/X ～ 30秒、Bulb）	手動

- 1/X秒は、各カメラのストロボ同調最高シャッター速度です。

〈**DEP**〉〈**A-DEP**〉で撮影すると、〈**P**〉（プログラムAE）によるストロボ撮影と同じ撮影結果になります。

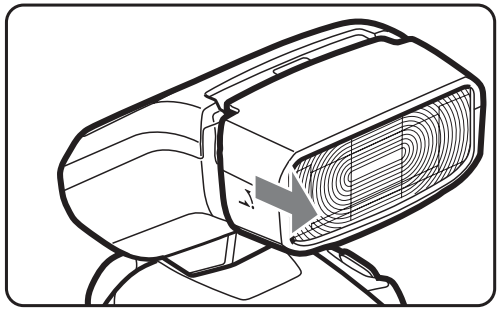
照射角の切り換え

- **発光部/通常状態**



ガイドナンバーは22（ISO100・m）。最大照射角は、EF28mm（EF-S18mm）広角レンズに対応しています。

- **発光部/引き出し状態**



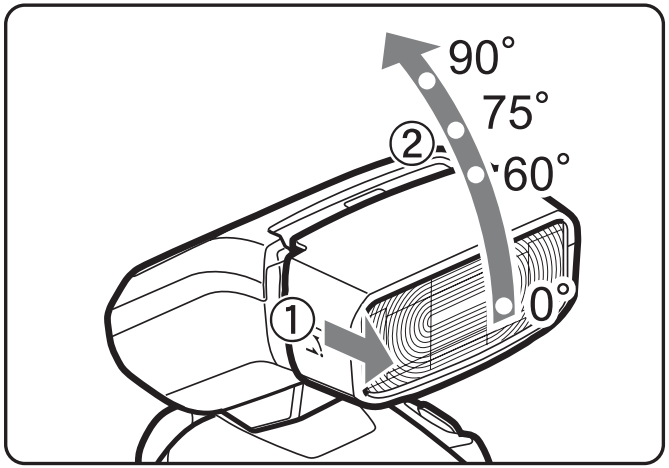
ガイドナンバーは27（ISO100・m）。照射角は、EF50mm以上（EF-S32mm以上）レンズ対応になります。

EF50mmより広角のレンズで撮影をすると、写真の周辺が極端に暗くなります。

ストロボ撮影距離範囲の目安は、p.19でご確認ください。

バウンス撮影

発光部を壁や天井に向けて発光させ、その反射光を利用して撮影すると、被写体背後の影が緩和されて、より自然な感じになります。



- 発光部を手前に引き出してから上に向け、発光部の角度を決めます。

- 撮影結果が暗いときは、小さな絞り数値を設定して（絞りを開いて）再度撮影するか、ISO感度を上げてください。壁や天井までの距離が離れているときにも撮影結果が暗くなるときがあります。
- 壁や天井は無地の白に近い色をした、反射率の高いものを選んでください。反射面に色がついていると、撮影結果がその色の影響を受けます。
- **バウンス撮影終了後は、発光部を正面位置に戻し、引き出した発光部を必ず元の位置に押し戻してください。**

テスト撮影を行って、撮影結果を確認し、最適なバウンス角度を決めてください。

その他の機能

オートパワーオフ機能

電池の消耗を防ぐため、90秒間何も操作しないと自動的に電源が切れます。カメラのシャッターボタンを押すと、もう一度電源が入ります。
*オートパワーオフ機能を切ることができます。(p.15)

AF補助光

シャッターボタンを半押しすると、ストロボが連続的に光ることがあります。これは、暗い場所でAFのピントを合わせやすくするAF補助光という機能で、有効距離は約4mです。なお、この機能は、外部ストロボ制御機能を備えたEOSデジタルカメラとの組み合わせ時に有効です。機種によっては、ファームウェアのアップデートが必要な場合があります。

モデリング発光

カメラの絞り込みボタンを押すとストロボが1秒間連続発光します。ストロボ撮影を行う前に、被写体の影の出かたを確認することができます。

モデリング発光は、連続10回までにしてください。発光部の発熱と劣化を防ぐため、10回発光したら、10分以上休止してください。

カメラ操作によるストロボの機能設定

270EXを外部ストロボ制御機能を備えたEOSデジタルカメラに装着すると、カメラのメニュー操作で下記の設定を行うことができます。設定方法や機能については、カメラの使用説明書も参照してください。

- **[ストロボの発光]（する*／しない）**
  [しない]は、AF補助光だけを使いたいときに設定します。

- **[外部ストロボ機能設定]**
  ・**発光モード**（E-TTL II*／マニュアル発光）
  通常は、[E-TTL II]で使用します。なお、自動調光をしない[マニュアル発光]も設定できます。

・**シンクロ設定**（先幕シンクロ*／後幕シンクロ／ハイスピード）
  - **先幕シンクロ**： シャッターが全開になると同時に発光する通常のストロボ撮影です。
  - **後幕シンクロ**： シャッターが閉じる直前に発光します。
  - **ハイスピード**： すべてのシャッター速度でストロボ撮影ができます。特に日中シンクロによるポートレート撮影を、絞り優先で行いたいときに有効です。

・**調光補正**
  露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。

・**E-TTL II**（評価調光*／平均調光）
  - **評価調光**： 暗い場所から日中シンクロまでのストロボ撮影を、全自動で行うことができます。
  - **平均調光**： 画面全体で平均的に調光します。

● **[外部ストロボカスタム機能設定]**
  C.Fn-01：オートパワーオフ（入*/切）
  C.Fn-06：連続撮影時のクイック発光（しない*/する）

*マークは、初期設定を示しています。

故障かな？と思ったら

「ストロボが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてください。

ストロボが発光しない

・電池が正しい向きで入っているか確認してください。（p.5）
・30秒たっても、〈ϟ〉ランプが点灯しないときは、電池を交換してください。（p.5）
・ストロボとカメラの接点部分を清掃してください。

写真の下側が暗い

・撮影距離が近すぎます。0.7m以上離れて撮影してください。
・レンズフードがついているときは、外してください。

写真の周辺が極端に暗い

・発光部を引き出した状態で撮影をしている場合は、発光部を元の位置に押し戻してから撮影してください。

写真が大きくブレている

・暗い場所で、〈**Av**〉モードで撮影している場合は、自動スローシンクロ撮影になり、シャッター速度が遅くなります。三脚を使用するか、〈**P**〉モードで撮影してください。

主な仕様

■ 型式

型式	クリップオンタイプ自動調光ストロボ
対応カメラ	E-TTL II/E-TTL自動調光方式のEOSカメラ
ガイドナンバー	27（発光部引き出し状態/ISO 100・m）
照射角	EF28mm（EF-S18mm）レンズ画角対応
色温度情報通信	発光時のストロボ色温度情報をカメラに送信

■ 露出制御

露出制御方式	E-TTL II/E-TTL自動調光、マニュアル発光
調光連動範囲	0.7 ～ 19.3 m （クイック発光：0.7～11.1m）
（EF50mm F1.4	* ハイスピードシンクロ：0.7 ～ 7.6 m（1/250秒
レンズ使用時・ISO100）	時）
カメラ操作対応機能	調光補正、FEロック、ハイスピードシンクロ、モデリング発光

■ AF補助光 ..... ストロボ間欠発光方式
有効距離：中央部約４ｍ／周辺部約3.5 ｍ

■ 電源

使用電池 単3形アルカリ乾電池 2本
発光間隔 ..... 約0.1 ～ 3.9秒（クイック発光：約0.1 ～ 2.6秒）
発光回数 ..... 約100 ～ 680回
節電機能 90秒放置で電源OFF

■ 大きさ ..... 64（幅）×65（高さ）×76.5（奥行）mm

■ 質量 ..... 約145g（電池別）

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

ストロボ撮影距離範囲の目安 (EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS使用時)　　[約・m]

ISO	発光部通常状態		発光部引出し状態	
	18mm	55mm	18mm	55mm
100	1～6.5	1～4	-	1～5
200	1～9	1～5.5	-	1～7
400	1～13	1～8	-	1～9.5
800	1～18	1～11	-	1～14
1600	1.5～25	1～16	-	1～19
3200	1.5～35	1～22	-	1～27
6400	2～50	1～31	-	1.5～39

写真の周辺が暗くなるため使用しないでください。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、製造打ち切り後５年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と、期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店、または別紙の修理受付窓口にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

MEMO

MEMO

Canon

CT1-5726-000
© CANON INC. 2009
PRINTED IN CHINA